

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000094		
法人名	株式会社ふとみ総合施設		
事業所名	グループホーム公楽苑ほほえみ I		
所在地	北海道石狩郡当別町太美南 818番地62		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・介護員に意識付けとして、認知症に係る講習会の参加を強化し認知症の対応 の介護、コミュニケーションの取り方、認知症タイプ別介護計画の取組
- ・地域との交流を深める(運動会の練習を見学・近隣のお祭りに参加・地元観光)
- ・緊急時における対応(火災避難訓練・緊急連絡の流れ)
- ・利用者様との共同作業(炊事・洗濯・掃除・買い物)
- ・急変時における対応(主治医・家族・受入病院等の連携)迅速かつ必要な情報等の報告
- ・月別行事の計画及び参加

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000094&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年10月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、災害時の対応や地域交流を深めるため、平成21年9月に現在地に移転した。新家屋は利用者の身体状況や生活、自然環境に配慮したつくりになっており、居間の大きな窓からは外の景色が一望でき、利用者も思い思いの場所でゆっくりと寛いでいる。系列法人の施設とは日常的に交流があり、お茶会や行事に参加をするなど利用者の楽しみとなっている。家族懇談会を隔月開催しており、そこでの意見や要望を全職員が共有しサービスの質の向上に活かしている。24時間対応の医療機関との連携や訪問看護師による健康管理、身体拘束の禁止、食事や外出行事を楽しめる環境づくりなど、利用者一人ひとりの生活を尊重するケアを実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方でも人として一人一人がお互いに助け合い家庭的な環境の基、自由楽しく日々生活を作り上げるよう努めていく。	「利用者の思いを尊重し心ふれあう介護・・・」「地域社会に貢献する心を養う」などの、経営理念と運営理念を掲げ、管理者と職員は毎朝のミーティングや月に一度のスタッフ会議で話し合うことで共有し、日々のケアで実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の努力の向上を意識し、地域包括支援センター主催によるケア会議等の参加にて行っております	地域の一員として町内会に加入し、毎月発行のホーム便りを回覧したり、地域住民がボランティアで訪問したりしている。また、利用者と一緒に保育所の行事見学をするなど、少しずつではあるが交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議参加者、町内会長及び民生員の方々を通じて施設で協力出来る事及び介護における相談やアドバイス、施設内での生活状況を通じての報告など情報を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等を通じ町内の皆様及び家族様に施設の生活状況及び各行事などをおたよりを配布しお知らせをしています。施設の状況を近隣に発信し、現在対面している問題及び行事の参加等連絡など今後の対策に生かして居ります	運営推進会議は、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。会議では、利用者の状況報告や事業所の現状、行事、防災について等、様々な課題をテーマとして意見交換を行っている。そこでの意見や要望は、事業所の運営に反映させるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じ町内の皆様及び家族様に施設の生活状況及び各行事などをおたよりを配布しお知らせをしています	行政担当者とは連携を密にしている。市町村と事業所の相互の課題について、相談や協議をしながら課題解決に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員セミナー等の参加により、職員間及び施設内において、拘束等廃止に取り組んでいます。又運営主体での身体拘束廃止委員会にて各事業所での対応及び対策に取り組んで居ります。	管理者と職員は、外部研修や法人内の勉強会に参加をし、職員間で禁止の対象となる具体的な行為について話し合い、日々、身体拘束をしないケアの実践に向け取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員セミナー等の参加により、職員間及び施設内において、体罰・虐待、拘束等廃止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立支援事業及び成年後見制度についての活動は出来ていませんが今後研修会等の参加や職員の学びかいを検討致します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者及び見学者に対し施設の説明現在問題になっている状況の相談や「運営規程」「重要事項説明書」「入居契約書」の説明及び今後の説明など取り組んでいます		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会、面会時における家族の相談、利用者様の要望など反映出来るよう努めて居ります。家族の面会の際最近の生活状況及び変化など報告、急変時については緊急にて連絡報告しています、また施設のおたよりにてメッセージを添え毎月発信しています。	運営推進会議には家族も参加をし、意見や要望を外部に表出できるようにしている。また、家族懇談会を隔月開催しており、利用者の様子を報告したり家族同士話をする機会を設け、そこでの意見を運営に反映させている。事業所を来訪できない家族には、便りや電話で利用者の状況を報告し、その際に意見や要望を聞くようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が中心となり定期的にスタッフミーティングを開催し意見を出し合いより良いサービスや運営について協議しています。	月1回の全体会議やスタッフ会議を設けており、管理者や法人本部長は、そこでの職員の意見や気づき、提案に耳を傾け、より良いサービスや運営に反映させている。また、系列法人全施設のリーダー会議も開催しており、意見や要望を出し、協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の変更や時間外手当、職場環境の充実及び介護器具及び備品等整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の参加や社内研修を通じて各職員のレベルアップ及び認知症実践者研修等により資格者の育成に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、お互いのスタッフのコミュニケーションのみにとどまっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの情報及び家族からの情報を出来る限り収集し分析しながら日常生活状況を観察し本人との信頼関係を深める様動めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めている事柄についての対応等について説明をし、対応した際の生活状況を随時報告できる限り希望の生活をして頂けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	疑問質問、求めている事などが話しやすくなる関係作りの努めていますまた心の思いを語りあえる様に心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現状でのサービス等提供出来る事を明確にご説明し且つ他の機関のサービス利用、情報等も合わせて紹介するようにしております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子及び日頃の利用者様の様子をこまめにお知らせ出来るよう心がけています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様とのコミュニケーションから友人、趣味など情報を得て今後の生活及び趣味を伸ばしていけるよう心がけています。	知人との関係が途切れないように、来訪してくれる人や電話連絡、手紙、趣味活動など家族からの情報も得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業、レクレーション、音楽鑑賞、ゲーム、など利用者様同士の関わりを深めて頂き仲間意識が向上出来るような環境及び行事等に努めて行きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護ケア記録や日常生活情報の提供につお目手います。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの情報及び家族からの情報を出来る限り収集し分析しながら日常生活を検討しています。	職員は利用者と毎日生活している中で、利用者一人ひとりの日ごろの仕草や行動パターンから思いや意向を把握し職員間で共有し、その人らしい暮らしができるよう支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの生活歴や暮らし方、環境等を情報収集し環境の変化が利用者様の心身に負担とならない様努力しております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や本人の好みの品、場所等個別対応を行い状況の把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在計画作成担当者制作の計画を実行して行くことで、職員全体、チームでの話し合いによる介護計画の作成を行っております。	詳細なアセスメントを基に介護計画を作成し、3ヶ月毎に見直している。利用者や家族の意向を汲み取った内容になっているかどうかスタッフミーティングでも意見を出し合い確認して、現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をケア記録として介護用ソフトを使用すると共にケア記録簿及び業務連絡簿に記入しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の際の受診同行や他事業所との交流を行っています			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の運営推進会議参加および町内会長の参加にてホームとのかかわりを持ちながら支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と主治医の先生と話し合いを設けて納得のいく医療を受けられるよう支援しております	事業所は、利用者が24時間対応の協力医療機関の往診、整形や他科の外来通院で適切な医療が受けられるように支援をしている。訪問看護による健康管理の支援もっており、利用者や家族の安心につながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携をとり随時相談等を行い利用者様の健康に配慮しています。又体調不良及び状態の変化にて迅速に主治医に連絡をとり指示を仰ぐ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の先生と入院先の病院担当者及びソーシャルワーカーと連絡相談を行い、施設での受入体制を整え早期退院にむけ努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居様ご本人とご家族、主治医の先生と何度も話し合いをもち状況に応じて一番良いケアを見出し各部署関係機関と連携をとり取り組んでいます。	重度化した場合や終末期の対応については、利用者や家族、医師、関係者と十分な話し合いを重ね、全職員が方針を共有し、家族の気持ちに配慮しながら慎重に取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各事業所を通じ各会議参加にて、ヒヤリハット及び事故対策委員会の会議内容、事例検討又、職員セミナー等の勉強会にて職員の意識レベルを高め作業の確認伝達緊急時の対応マニュアルの確認等定期的に行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各マニュアル等を作成市町村の緊急対策資料に基づき年二回の避難訓練及び緊急連絡網の作成を行っています	避難訓練は消防署立会いの下、昼夜を想定した訓練を年2回実施している。AEDやスプリンクラー、消防へ直接つながる緊急電話の設置、災害時に備え非常食や備品も整っているが、近隣住民の協力体制を築くまでには至っていない。	火災や災害などへの対応に際しては、日ごろの訓練及び近隣住民の協力が不可欠である。町内会への要請や運営推進会議での検討課題として取り組みを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねる内容等の会話などまた、ケアの際の声掛けの内容についても個人のプライバシーを尊重するよう心掛けています。又接遇マナー教育を行っています	日常の関わりの中で、利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉がけや対応には十分な注意を払い、個人情報の管理にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話において本人の希望等の情報を聞き入れ察するよう心掛けて日々努力しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安心した生活をして頂けるようご本人のペースに合わせて支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な美容及び衣類の損傷、女性においては、化粧品等の残及び管理など支援し鏡に映る御自分の姿等納得頂けるよう努力しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立やおかずの内容や旬の食材など細やかな内容の説明や好のみの食べ物の話題など会話を楽しみながら支援をしています	食事は、栄養のバランスと共に品数も多く、彩りよく盛り付けている。職員は急かすことなく、介助をしたり、さりげなく見守り、声がけをしており、利用者は、ゆっくりのんびりと食事の時間を楽しんでいる。食事の準備や後片づけは、利用者ができる範囲で手伝っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもと一日役1,500kcalを基準に提供させて頂いておりますが、個々の食事摂取能力など状況に応じた形態(刻み、ミキサー)にて支援し、水分補給量及び食事摂取量は記録に取り情報を共有しております			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて、口腔ケアの誘導及び義歯洗浄を行っております。協力医療機関の口腔ケア指導を職員が受け誤嚥防止及び感染防止に取り組んでいます。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の要望にて、自尊心を傷つけない様配慮し支援しております又日々の生活リズムに定期的に促し誘導など行っております。	職員は、一人ひとりの生活パターンを把握し、声がけにも注意を払い、タイミングを見てさりげなく誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然は排便が出来るよう個々の水分補給量の把握と体を動かす事(ストレッチ体操)を取り入れ記録にて情報を共有し排便の無い日の日数を確認支援しております			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人確認のうえ健康状態等を観察し一人ずつ入浴を楽しんで頂けるよう対応しております。	利用者の希望やタイミングに合わせ、週に2~3回午後の時間帯に一人ずつ入浴をしている。浴室内は、明るく広く、バリアフリーになっており、入浴用チェアも配置しており、安全でゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の要望にて、日々の生活リズムに合わせて行っております又馴染みの寝具の活用等を行っております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容、薬の内容等把握し看護と主治医との連携にてお薬を管理し服薬を支援しております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月一度程度の行事等に参加及び近隣の子供たちとの交流などをつづじて四季の変化及び日々のゲームや音楽療法を通じて行っています			

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他事業所の畑及び花壇、ご近所の散歩など健康状態及び天候の状況に応じ行っております	近隣の系列法人施設との交流を密に行っており、敬老会やカラオケなど種々のイベントに参加している。また、近所の散策や車を利用しての買い物ツアーや保育園行事の見学など積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様自己管理使用出来る方は、動作等を観察し出来るだけ現状維持出来るよう買い物等同行し支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じ対応支援しております ご本人のお手紙を読んであげ家族からのお気持ちも伝えていきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季間の暖房設備がセントラルヒーティングを使用していますので、湿度及び室温を把握し強制換気設備を利用又は自然換気にて調整を行っています	居間は広く、ゆったりとしており、大きな窓の向こうには広いテラスがあり、利用者が自由に寛げる場所となっている。また、採光や安全、機能的にも利用者に配慮したつくりになっている。浴室は広く対面式になっており、介助もしやすく設計されている。洗面台やトイレは車椅子対応も可能で収納場所にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	センタコアの明るい居間及び食堂が見渡せ各居室から出ると広々とした空間に成っており、入居者様同士がくつろいでいたり楽しんで居たりする様子がうかがわれている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々生活にて使用している物を慣れ親しんだ物を使用して頂き動作及び持ち物が御自分の物である理解力及び使用方法について支援しています。	居室は、柔らかな日差しが差し込む中、利用者が使い慣れた家具や仏壇を置き、家族の写真や趣味の習字などを飾っており、その人らしい生活環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分に手すり等を設置し歩行及びつまずき防止に床の状態および歩行動線上に障害となる部分の異動及び歩行補助具等に使用により行動範囲の拡大に心掛けています。		